

〈三郷学の視点②〉

三郷学の視点

9. 連携・協力 (試行錯誤が感動に！)

三郷のまちを「キラリとひかる」まちにするためには、まずは三郷のまちを知ることが大切です。そのうえで三郷の資源(人・自然・地勢・産業・交通・歴史・教育・文化など)を活かし、社会環境の変化を見据えて、三郷の歩むべき方向性を探り、実際に行動することが大切です。三郷市では《三郷学》として、この学びと実践に取り組んでいます。

もちろん、この取り組みは、市だけでできるものでは

ありません。市民、団体、企業、市、さらには県や国が連携・協力を図りながら進めていくことが必要です。さまざまな、まちづくりの主体が三郷というまちを舞台に

各々の役割をさまざまに担い演じることとなります。

名舞台の裏には、客席からは見えない役者一人ひとりの稽古やみんな稽古をする通し稽古(リハーサル)が必要です。はじめは、思い通りにならなかった演技もやがて舞台の初日が近づいてきたときには、客席に感動を与えることができるようになります。



ます。

いま、前例のない時代にあって、まちづくりにおいても、さまざまな試行錯誤という名の稽古が求められています。試行錯誤には、さまざまなまちづくり主体の連携・協力が必要です。連携・協力が三郷のまちに感動を生みだします。